

➤ **ロマンチックウォリアー (ROMANTIC WARRIOR、漢字表記：浪漫勇士) = 香港**

せん6歳・鹿毛 (アイルランド産・2018年3月18日生まれ)

父：Acclamation = 母：Folk Melody (母の父：Street Cry)

馬主 : パツァイ・ラウ氏

調教師 : チャップシン・シャム

騎手 : ジェームズ・マクドナルド

戦績 : 全19戦14勝、2着3回

総獲得賞金 : 約25億8,430万円

主な戦績 : '22・'23・'24 クイーンエリザベスII世カップ (G1) 1着
'24 香港ゴールドカップ (G1) 1着
'22・'23 香港カップ (G1) 1着
'23 コックスプレート (G1) 1着
'22 ジョッキークラブカップ (G2) 1着
'22 香港ダービー (L) 1着
'22 香港クラシックマイル (L) 1着
'23 チャンピオンズ&チャターカップ (G1) 2着
'23 香港ゴールドカップ (G1) 2着
'23 スチュワーズカップ (G1) 2着

ロマンチックウォリアーはアイルランドで生産され、2019年10月のタタソールズ・イヤリング・セールにおいて30万ギニー(当時約4,430万円)で香港ジョッキークラブに購入されると、21年6月に同クラブ主催の香港インターナショナル・セールでは480万香港ドル(当時約6,380万円)の値がつけられ、現在の馬主の所有馬となりました。

ノーザンダンサーに連なる父アクラメーション(その父ロイヤルアプローズ)は現役時にスプリント戦線で活躍し、G2ダイアデムステークスなど6勝。本馬以外の主な産駒にエキアノ(キングズスタンドステークス)、マーシャ(アベイドロンシャン賞、ナンソープステークス)、アクレイト(フォレ賞)、エキスパートアイ(ブリーダーズカップマイル)ら短距離～マイルの活躍馬がおり、直仔のダークエンジェルやメーマスも短距離のG1馬を輩出するなど種牡馬として成功を収めています。母のフォークメロディ(その父ストリートクライ)は現役時1勝(芝1,400m)、祖母のフォークオペラは中距離G1のE.P.テイラーステークス優勝馬。母系からはペルーのナショナル大賞アウグストB.レギーア(芝2,600m)を制したミスターバイレッティ、伊ジョッキークラブ大賞やイタリア大賞(ともに芝2,400m)の勝馬セントヒラリーオンといった中長距離馬が出ています。

チャップシン・シャム厩舎から2021年10月にデビューしたロマンチックウォリアーは、ジョアン・モレイラ騎手とのコンビで1,200m～1,400mのクラス4、クラス3のハンデ戦を4連勝し、香港4歳クラシックシリーズに駒を進めます。初戦の香港クラシックマイル(シャティン、リステッド、芝1,600m)はカリス・ティータン騎手とのコンビで臨み、内の6番手から残り200mで進路を確保すると、逃げたカリフォルニアスパンゲルをゴール手前でかわして優勝。デビュー5連勝で一冠目を制しました。

続く香港クラシックカップ(シャティン、リステッド、芝1,800m)は伸びを欠いて4着に終わりましたが、シリーズ最終戦の香港ダービー(同、芝2,000m)では中団から4コーナーで先行集団を射程にとらえると、最後はカリフォルニアスパンゲルとの競り合いをアタマ差制し、4歳クラシックシリーズ二冠を達成。香港インターナショナル・セール出身馬の香港ダービー優勝は史上初のことでした。次いで古馬一線級と初対戦となったクイーンエリザベスII世カップ(シャティン、G1、芝2,000m)は1番人気に推され、中位から残り300mで先頭に立つと最後は2馬身差をつけて完勝。同一シーズンの香港ダービー、クイーンエリザベスII世カップの勝利はワーザーらに次ぐ史上5頭目のことで、年次表彰では最優秀4歳馬、最優秀中距離馬に輝きました。

翌 2022/23 年シーズンは 11 月のジョッキークラブカップ(シャティン、G2、芝 2,000m)で始動し、ジェームズ・マクドナルド騎手との初コンビで快勝。勝ちタイム 1 分 59 秒 23 はコースレコードでした。続く香港カップ(シャティン、G1、芝 2,000m)は残り 300m で先頭に躍り出るとそのまま独走状態。最後は日本のダンザキッドにレース史上最大着差となる 4 馬身半差をつけました。2022 年のワールドベストレースホースランキングはレーティング 124 で世界 8 位タイ、芝の距離カテゴリー「I(1,900m~2,100m)」ではバーイードに次ぐ 2 位でした。

2023 年を迎えて最初の 2 戦はティータン騎手に手綱が戻り、ゴールデンシックスティとの対戦が実現します。1 年ぶりのマイル戦となった 1 月のスチュワーズカップ(シャティン G1、芝 1,600m)はカリフォルニアスパングルの 2 番手を進みますが、直線に入ってすぐ後ろにつけていたゴールデンシックスティにかかわされ、その後ようやくギアが上がったもののカリフォルニアスパングルをかわしたところがゴール。ここは 1 番人気でしたが、1 馬身差の 2 着でレースを終えました。距離が 2,000m に戻った 2 月の香港ゴールドカップ(シャティン、G1、芝 2,000m)でも 1 番人気に推され、残り 200m を過ぎて先頭に立ったものの、一完歩ごとに差を詰めてきたゴールデンシックスティにアタマ差先着を許したもや 2 着でした。

再度マクドナルド騎手とコンビ結成となったクイーンエリザベス II 世カップでは、3 番手から残り 200m で抜け出した後もしっかりと伸びてプログノーシスの追撃を 2 馬身差抑え、2002~03 年のエイシンプレストン以来となるこのレース連覇を成し遂げました。シーズン最終戦は初距離となったチャンピオンズ&チャターカップ(シャティン、G1、芝 2,400m)で、ここはハナに立ってレースを進めましたが、逃げ切り間近でロシアンエンペラーに差されてクビ差の 2 着。騎乗したザカリー・パートン騎手は得意な距離ではない中で健闘した馬を讃えつつ、終盤で並び掛けてきたマネーキャッチャーからのプレッシャーが響いた点を敗因に挙げました。2022/23 年シーズンは 6 戦 3 勝、2 着 3 回で、2 シーズン連続で最優秀中距離馬を受賞しました。

この 2023/24 年シーズンはオーストラリア遠征で幕を開けました。初の左回りとなった 10 月 7 日のターンブルステークス(フレミントン、G1、芝 2,000m)は直線で伸び切れずに 4 着に終わりましたが、休み明けを使われて状態は良化。3 週後のコックスプレート(ムーニーバレー、G1、芝 2,040m)では 4 番手から先行勢に並び掛けると、最後は 3 頭横一線の激戦を 0.1 馬身差制して優勝。勝ちタイムの 2 分 3 秒 16 はウインクスが 2017 年に記録したレースレコード(2 分 2 秒 94)に迫る好タイムでした。香港馬によるオーストラリアの G1 勝利はケープオブグッドホープの 2005 年オーストラリアステークス以来 2 頭目のこと。帰国初戦となった 12 月 10 日の香港カップも 4 番手から残り 300m で先頭に立ってルクセンブルクの追撃を短アタマ差封じ、2011~12 年のカリフォルニアメモリー以来となる連覇となりました。2023 年のワールドベストレースホースランキングはレーティング 123 で世界 15 位タイでした。

年が明け、2 か月半の間隔を置いて向かった 2 月 25 日の香港ゴールドカップでは 4 番手から最後の 300m はヴォイツジバブルとの一騎打ちに。非凡な勝負根性を見せて最後まで先頭を譲らず、クビ差で 6 つ目の G1 タイトルを手にしました。クイーンエリザベス II 世カップ、香港カップ、そして香港ゴールドカップの 2,000m G1 をすべて制したのはヴェンジェンスオブレイン、デザインズオンルームに次いで 3 頭目の快挙です。レース後シャム調教師は安田記念に遠征する可能性があることを示唆しました。その 2 か月後、前走となる 4 月 28 日のクイーンエリザベス II 世カップでは 10 番手から 4 番手につけ、一時は 7 番手までポジションを落としましたが、大外を回って直線に向くと徐々に前との差を詰め、残り 200m を過ぎて先頭へ。プログノーシスの抵抗をクビ差抑え、G1・4 連勝と史上初のこのレース 3 勝を達成しました。

通算成績は 19 戦 14 勝(うち G1・7 勝)。全て良~稍重馬場で道悪経験はありません。左回りはいずれもオーストラリアで 2 戦 1 勝。2023/24 年シーズンの 5 戦は全てジェームズ・マクドナルド騎手が手綱を取り、同騎手とのコンビでは 8 戦 7 勝です。マイルは 2 戦して 1 勝、2 着 1 回で、持ち時計は 2022 年香港クラシックマイル優勝時の 1 分 33 秒 80。2 着だった昨年のスチュワーズカップで得たレーティング 123 は同年の芝の「M(1,301m~1,899m)」部門でビッグロック、ゴールデンシックスティに次ぐ世界 3 位タイでした。今年 5 月 5 日までのワールドベストレースホースランキングでは世界 6 位タイの 120 で、芝の「I」カテゴリーではトップタイです。

● 馬主：パツファイ・ラウ氏 (Pak Fai Lau / 漢字表記：劉栢輝)

香港で育った後、カナダで学び、クイーンズ大学応用科学部を卒業。1981年に香港で貿易会社を設立し、家庭用品の輸出入業を展開すると、1991年にはホームセンター「日本城」のチェーン1号店を香港で開業し、現在では世界各国に店舗が拡大しています。

共有名義を含めてこれまで数頭の競走馬を所有し、そのほとんどはシャム厩舎に預託されています。当初は自身の経営するホームセンターから連想して、家庭を意味する「HOUSEHOLD」を冠に使用。現在では「ROMANTIC」を冠名に、本馬を含め現役馬3頭を所有しており、今回ともに来日するロマンチックチャームは、本馬の今年のオーストラリア遠征にも帯同しました。

● 調教師：チャップシン・シャム (Chap Shing Shum / 漢字表記：沈集成)

1960年6月27日生まれの63歳。1977年から1983年までの間、香港で騎手として通算24勝を挙げました。騎手引退後は、先のチャンピオントレーナーであるアイヴァン・アラン厩舎の調教助手として経験を積み、2000年の安田記念を制したフェアリーキングブロンなどの有力馬に携わりました。

2003/04年シーズンから調教師としてのキャリアをスタートし、初年度から34勝を記録すると、翌シーズンには47勝を上げるとともに、シンティレーションで香港クラシックマイルを制するなど、早くから活躍を見せます。近年は常にリーディングのトップ10圏内を維持し、2020/21年シーズンはキャリアハイの57勝で5位、2021/22年は45勝で7位、2022/23年は50勝で7位。現2023/24年シーズンは、5月22日終了時点で402戦45勝で6位、通算勝利数は800を超えています。

これまでの主な管理馬にシンティレーション(2006・07年センテナリースプリントカップ)、サムズアップ(2009年香港クラシックマイル)、シーズンズブルーム(2018年スチュワーズカップ)、ビクターザウィナー(2024年センテナリースプリントカップ)などがあります。さらにここ3シーズンは本馬で香港競馬界を席卷し、2022年に香港クラシックマイル、香港ダービー、クイーンエリザベスII世カップ、香港カップ、2023年にクイーンエリザベスII世カップ、香港カップ、今年に入り香港ゴールドカップ、クイーンエリザベスII世カップを制しました。

海外でも同馬が昨年オーストラリアで行われたコックスプレートを勝ったほか、2012年にはリトルブリッジがイギリスのキングズスタンドステークスを優勝しています。日本に管理馬を送るのはそのリトルブリッジで参戦した2012年のスプリンターズステークス(10着)、そしてビクターザウィナーが出走した今年3月の高松宮記念(3着)以来、3度目のこととなります。

● 騎手：ジェームズ・マクドナルド (James McDonald)

1992年1月6日生まれ、ニュージーランド北島出身の32歳。父のブレットはかつて障害騎手として活躍し、調教師に転身。2007/08年シーズンにデビューすると、スペシャルミッションで新ブリーダーズステークスを制してG1初勝利を挙げるなど、90勝で見習騎手リーディングに輝きました。続く2008/09年シーズンは125勝でリーディングに輝き、さらに2010/11年シーズンにはニュージーランドのシーズン最多勝利数記録(197勝)を更新する207勝を挙げ、2度目のリーディングタイトルを手にしました。母国では2009年にジャングルロケットでオークスを、2012年にサイレントアチャーヴァーでダービーを制しています。

2012/13年シーズンにオーストラリアのシドニー地区に拠点を移すと、2013/14年、2015/16年、そして2018/19年からは5シーズン連続でリーディングを獲得し、現2023/24年シーズンも5月22日時点で77勝を挙げトップに立っています。オーストラリアでの主なG1勝鞍にオーストラリアンダービー(2013年イツアダンディール、2024年リフケット)、オーストラリアンオークス(2014年ライジングロマンス、2019年ベリーエレガント)、クイーンエリザベスステークス(2014年イツアダンディール)、コックスプレート(2022年アナモー、2023年ロマンチックウォリアー)、メルボルンカ

ップ(21年ベリーエレガント)、ヴィクトリアダービー(2023年リフロケット)、VRCオークス(2023年ガードジ)などがあります。

香港でもたびたび期間限定で騎乗しており、本馬のほかにエクステンションで 2012 年チャンピオンズマイル、ラッキースワイネスで 2023 年クイーンズシルバージュビリーカップ、ヴォイッジバブルで 2024 年スチュワーズカップを優勝。2022 年にはネイチャーstrippでイギリスのキングズスタンドステークスを制するなど国内外で数多くの G1 タイトルを手にし、同年のロンジンワールドベストジョッキーを受賞しています。キャリア通算で G1 勝鞍は 90 以上を数え、勝利数は 2,100 を超えています。

今回は 2014 年のワールドスーパージョッキーズシリーズ以来の来日騎乗で、エキストラ騎乗も含めて JRA 通算 5 戦でまだ勝利はありません。